

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年11月4日(月)

みんなの居場所

雑感

数年毎に、最初の教える子達との同窓会がある。とても楽しい会だ。この気持ちに教師にしか味わえない、いわゆる教師員利を感じる瞬間だ。そして、私自身の勉強の場でもある。何故なら、教育現場にしかないため他の職種や組織についての情報が乏しいからだ。教師という職業は、そして、先生、先生と持て囃されるものだからすっかり良い気になって失敗する事も多い。「実は頭を垂れる程様々な」でいいものだ。

この子達を担任させて頂いたのは平成元年度、今から37年前のことだ。同窓会では37年振りに会う子もいる。それぞれ色々な経験をしている。彼らの経験を聞いていて、私が経験してきたことがうろ覚えに感じてしまう。「愚痴な言わさんばちゃん」と、本気で思ってしまう。担任していた当時から、私の教える子達は親しみを込めて「おっちゃん」と呼んでいた。「澤田組」。

さて、教師という職業は慣れてきていくという言葉を発した人がある。自分が慣れた存在だったかは別として、教える子達は口を揃えて「言っている。あの時は楽しかった。」今でも私は自戒の意味で思っている。「自分は教える子達に楽しい時間を提供できていたのだろうか。」「居場所を提供できていたのだろうか。」「この甲斐を感じてくとも達に向き合っていたのだろうか。」「それが出来なくなった時が、教師を辞めなければならない時だと思ふ。」

経験則④「SNS」依存

「SNS」は、加速度的な変化を遂げている現代社会の象徴的なツールであり、今後ますます浸透していくことが出来なければ、社会の波に乗っていくことが難しいとも言えます。私達が普段生活している中でも「SNS」の「コミュニケーション」もあるくらいです。しかし、児童生徒の「メンタル・ウェルビーイング」は喫緊の課題です。一言でいえる使い方が無いのです。いわば「依存」です。常にスマホが無ければ生活できない、保護者が取り上げてもしつものなら、逆切れして親に食って掛かる等の現象が起きています。これが児童生徒の将来に良い訳がありません。自戒の意味も含めて、私自身自分のスマホの付き回し方を振り返ってみました。私の場合、当たり前の言葉は当たり前ですが、電話やPCとして使うことがメインです。しかし、簡単な連絡はメールやラインのやり取りで済ますことが多く、いわゆる「ライン」は便利で方法を夫して使っています。使う時間帯は「おっちゃん」食事をしている時にスマホの画面を見ながら、ということがあります。我が家ではスマホでゲームをすることはあまり無いのですが、双子の息子達は、親しい友人達で常に繋がっていたらいい、ラインのやり取りは時場所を選ばず、併せて「YouTube」の視聴は長い。最近では少し大人の使い方ができるようにはなっていますが、「依存」が進むと病的な状況に陥ることもめまうです。最悪は「引きこもり」の状態です。そうなることの無いように私もフントナを張っていかないと思っています。

シリーズ「自分を語る」#48

卒業を意識し始めた2月の終わり、そろそろ卒業式の練習が始まる頃でした。子ども達からの提案がありました。それは卒業式での「呼びかけ」を自分たちで考えたいというものでした。提案があった時は少々面喰いしましたが、呼びかけにナイトハイクの心を盛り込みたかったのという、提案する目にも真剣さが感じられました。数名のメンバーが「呼びかけ製作委員会」として頑張るようになりました。そして卒業式当日…。呼びかけの1部はこうでした。

夏の挑戦 42、195kmの ナイトハイク

初めての挑戦でした

歩き通した仲間がいました 車に乗る仲間もいました

みんな歩き通したかった だから 僕たち 私たちは 明日

再挑戦します 後悔しないために 絶対に歩き通します

こんな感じで呼びかけが続いていきました。そう言えば卒業式当日、保護者の皆様も子ども達も涙の泣いていなかったような気がします。当分の前には当たり前だったのかも知れません。翌日には42、195km歩くと聞いたら、その方々に気持ちがいっていただけたかも知れません。大人も子どもも、卒業式より歩き終わった後の方が、涙が多かったようです。

さて、ナイトハイクのリベンジのコースを紹介します。JR内牧駅を出発、国道17号線を立野まで行き、途中から県道207号線、県道36号線、熊本空港を経て豊田小学校に至るルートです。風間に行くというところは朝の時間帯にはスタート位置にないけれども、このコースを出発したのは午前8時頃でした。子ども達と保護者の皆さんは卒業モードに浸る時間もなく早速早起きをする必要はありません。しかし、それに誰も文句を言わず、集合場所に集まりました。午前4時頃、JR南熊本駅には賑やかな声が聞こえていました。全員集合したのは集合時刻の30分前、列車の出発はまだ1時間30分ありました。

この時初めて、私の企画する行事に教える子達が参加し始めます。当時、龍田小学校での教える子達は高2から高3に進級する時期でした。私の最初の教える子は、平成元年度龍田小学校の5年生でした。その子達がすでに高2でした。この子達の数名は常に私と連絡を取り合っていましたので、「豊田小学校の6年生と一緒に42、195km歩こう」という、あつちの6年生のサポーターの参加となりました。彼らも高2から高3にかけての時期、進級や就職、自分の人生について少し悩んでいたようで、私の意見を聞きたくったようでした。だから参加したのかも知れませんね。そう言えば、この時の教える子達の中から3名の教師が誕生し、今でも繋がりを持ちながら、節目節目に連絡を取り合っています。また、この参加を機に当時の教える子達も、行事の達成感を味わうべく、更には同窓会的なイベントに心躍らせるような豊田系も感じられるようになった。様々な行事に多くの教える子達が参加してくれるようになったのは、ここが原点であり、今でも教える子達の「縦割りの活動」が展開中です。行事をサポーターになら、「おまえ同年生澤田組。」「いつの澤田先生の教える子。」等の会話が聞かれます。(つ)(つ)